

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0391100062 | | |
| 法人名 | コンフォートライフ合同会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム やかた | | |
| 所在地 | 岩手県釜石市大町3-9-16 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年1月7日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年5月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&I_gyosyoCd=0391100062-00&PrefCd=03&Versi.onCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------------|
| 評価機関名 | 公益財団法人いきいき岩手支援財団 |
| 所在地 | 岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内 |
| 訪問調査日 | 平成29年1月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人らしい生活が維持出来るように、個々の希望や状況に合わせたケアを心がけています。利用者と家族、職員や地域の方々と、共に励まし合いながら支援できるような関係作りに努めています。
利用者が大好きな釜石でとにかく楽しく過ごせるように「ほっと一息ぬくもりのあるやかた～1日十笑～」を介護理念に、いつも笑いの絶えない毎日できるように支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災復興が著しい市街地一角に、2階建ての地域密着型サービス「やかた」があり、1階が小規模多機能事業所で2階に当グループホームがある。理念「ほっと一息、ぬくもりのあるやかた」を掲げ、職員と利用者・家族が一体になり、共に楽しいホームづくりを目指している。近くで買い物しやすい環境下であり、利用者が積極的にショッピングの楽しみを味わっている。管理者が町内会の役員であり、地域・消防・学校関係との繋がりがよく、小規模多機能事業所とホームが合同で定期的に劇・歌・遊戯等の見学・交流が活発に行われている。職員は、自ら課題を見出し、更なるレベルアップを目指し取り組んでいる。震災後に採用となった職員たちが、目覚ましい努力で資格保持者になり、広い視野からの感覚を活かして業務に当たっている。地域のあたたかい支援により、病院・美容院への有料ボランティアによるタクシーが一部利用されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝の申し送りで介護理念と目標を復唱し意識を高める様に努めている。 | 理念と目標を復唱し、前日のケアを振り返り、言葉によりポイントをチェックし合い、それから申し送りを行っている。できるだけ、連日の業務が惰性にならない様に管理者が率先し復唱することを心がけている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 保育園園児や小学校児童が学年ごとに、定期的に劇や歌、遊戯を披露に来所して下さい。他、地域のお祭りやイベントに参加している。 | 自治会に加盟しており、さらに管理者が地域の役員でもあることで、保育園・小学校・町内会との繋がりが密であり、定期的に1階の小規模多機能事業所と合同で子供たちの歌や遊戯、劇を楽しんでいる。また、近くの教会のコンサート等の案内も頂き、楽しんでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 避難訓練前に車椅子の操作方法や、手引き歩行の安定性、声掛けの仕方を説明している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回の推進会議では利用者や家族、職員も参加し多方面から報告や意見が出されている。介護職員から現状報告をしている。 | 会議は、1階の小規模多機能事業所と合同で実施している。流れとしては、報告・連絡(ヒヤリハット含む)・計画・意見交換(防災含む)の順となっているが、時には、職員による認知症についての説明があり、全体的な意識高揚につながっている。見やすくまとめた議事録は、月末の職員会議時に全職員に説明し、共有に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域包括センターとの連絡を密に取り、情報交換を行っている。日頃から市町村の担当部署に出向く機会が多く、情報交換をしている。 | 特に担当課には、定期的に出向き、市からの通達書類等を受け取りがてら、症状の重くなってきた利用者の今後についての相談や介護認定、人権擁護関係等について相談にのって頂いている。推進会議時にも出席していただき、福祉全般の情報を頂いている。また、自然災害時の安否の連絡もいただいている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | リスクマネジメント委員会が身体拘束をしないケアについて取り組んでおり、施設内研修にて職員全体が意識を高めるよう取り組んでいる。スピーチロックが聞かれたら職員同士、直ぐに注意が出来る環境作りをしている。 | 3名のリスクマネジメント委員のリードで、拘束全般の内部研修を実施している。ベッドの柵について、利用者の安全のため、一部取りつけている利用者もいるが、安全を確認し、家族の了解を得ている。利用者への声掛けが適切でない時には、その都度さりげなく注意し合うチームワークの良さが窺える。 | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | | 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束を発見した際には直ちに報告する様に職員全体で把握し取り組んでいる。 事業者内では研修を行い防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用されている方がおり、成年後見制度等について、ミーティングにて担当職員より説明を受けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者や家族には不安が無い様、細かく説明をし理解を得るまで伝えるようしている。質問がし易いような雰囲気作りをしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議には利用者や家族が参加し発言が出来るように配慮をしている。 沢山の意見交換を行っている。 | 広報「やかた」に連絡コーナーを設け、利用者の生活状況を記入し家族に送付している。また、運営推進会議に利用者・家族代表も出席し、気楽に発言できるように配慮している。通院時や面会の時にも会話をしながら意見・要望を聞くようになっているが、運営についての意見はあまりない。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に一度の全体ミーティングでは連絡事項や職員からの意見や業務の改善について話し合っている。 殆どの職員がミーティングで意見を言えるように工夫をし意見や提案を聞く機会を設けている。 | 毎月の全体会議には、殆どの職員が(休日の職員も)参加しており、職員の業務に対する強い意欲が窺える。業務の検討や連絡事項、推進会議の内容について、管理者が全員に発言しやすい雰囲気指し、前向きな意見交換の場となっている(シフト一部変更やリフト浴の利用等々)。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の能力に合わせ評価をし志高く業務にあたるよう整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設外研修は積極的に参加しミーティング後に報告会を行っている。 また、施設内研修にて職員全体で知識深めることにも繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 求職者の施設見学や研修生の受け入れを積極的に行っている。 | | |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所して直ぐは慣れない事も多いため不安が解消されるようにコミュニケーションを多くとり安心して暮らせるように職員全体で環境づくりに取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が今一番何に不安を持っているのか、情報を収集し安心して頂けるようなアドバイスが出来るように要望を聞き支援を見極めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 細やかに説明をしながら施設見学と、必要としているサービスの要望を見極め説明をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 自立支援を第一に利用者の得意とする分野で家事参加をして頂き、自宅同様に暮らしていける環境づくりを心がけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会に来られた際は、入所者を交え暮らし方や様子、体調不良の有無など利用者の暮らしが把握出来るように伝えていくよう心掛け、家族との関係が切れないように支援している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 気兼ねなく面会に来られるよう、家族や知人が訪れ易い環境づくりを心がけている。 | 携帯電話で娘さんと自由に会話されている利用者、安全な場所で喫煙される方、タクシー会社の協力で受診や美容室に行かれる方等々、おらかな支援が利用者の活気ある表情とホームの明るい雰囲気に反映されているように窺えた。家族の面会も多く、また、近くの馴染みの商店に、入れ替わりで買い物にも積極的に出かけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士、笑いが絶えずとても良い関係を築けている。孤立しないよう職員が架け橋となり良い関係が作れるように声掛けをしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 殆どの方が亡くなられての終了となっているが、入院や施設入所終了となった方は、家族や関係機関から経過を確認している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 何気ない会話の中から意向や希望をお聞きし、情報を収集している。 | 昼食後や入浴時、就寝前などに、職員との会話の時間が多く、その中から意向や希望を把握することが多い。「一日十笑」の理念を念頭に、会話を大事にしている。食事準備で利用者皆で、芋の皮むきをしていたが互いに笑顔で、楽しそうに会話をしながら上手に作業していた。職員は、利用者の潜在能力を上手に引きだすよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日常の会話の中から本人の暮らし方や生活を聞き取っている。また御家族が面会に来られた際には職員も時には話題に入れて頂き情報提供を頂いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の日課としている事柄に対し声掛けをし、自分の思い通りに結果が出せるよう配慮をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常生活において体調不良や認知症の変化が見られた時、会議を実施し介護計画に反映している。 | 居室担当者が、それぞれの利用者と家族からの情報を集めて、また、日々の申し送りノートも参考に会議をし、モニタリングを行い、必要に応じて医師の意見も取り入れ、何らかの変化が生じた際には、その都度会議を行い、計画に反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 常にメモが出来るようにデスクに専用の記録版があり職員全員が一目で分かるように色別に分け記入し、更に細かにケア記録を実施している。 | | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 近くのドラッグストアまで出掛け、乳液や化粧品など女性ならではの買い物への支援と、飲酒が習慣の利用者はお酒に合うおつまみを購入して頂ける様に気兼ねなく買い物へ出向けるようにしている。 喫煙のある利用者は自身でタバコを購入出来るようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 有料ボランティアを利用し馴染みの美容室へ出掛けるように支援をしている。 出張美容院は3ヶ月に一度を目安に依頼。ヘアカットをしながら会話を楽しんで頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の受診は御家族に行って頂いている。 また、有料ボランティアを利用し出来るだけ同じ方が対応して頂ける様に手配し安心して受診出来るように支援して頂いている。 受診が困難になった利用者様は在宅療養科へ紹介をし安心して医療を受けられる。 | 協力医への受診(3名)は職員が通院対応し、以前からのかかりつけ医への対応(6名)は家族対応としているが、状況に変化があった際には職員がついて行くこともある。なお、1名の方は、有料ボランティア(タクシー)を利用されている。通院困難な利用者は、在宅療養科を紹介し、往診して頂くようにしている。受診の際には、普段の身体情報を詳しく報告し、医師からの診察結果も全員共有し、それに基づき支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調不良やいつもと違った変化を見逃さず看護師に報告、相談をしている。また入所者が安心して看護を受けられるように主治医しに的確に説明が出来るように努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 詳しく記録したサマリーを入院先へ渡している。 退院時には医師から説明を受け、利用者が安心して退院後の生活が送れるよう病院との関係作りに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時、看取り介護の方針を説明し主治医と連携し家族と本人の意思の確認を行っている。 実際に看取り介護を行っている。 | 入居受け入れ時に、重度化や終末期にとるべき指針を本人・家族に詳しく説明し、出来るだけ希望に添えるように対応している。過去に2度、看取り介護を経験している。夜間や緊急時の対応について、それぞれのかかりつけ医との連携を密にし、指示を得ている。マニュアルを基に、勉強会も実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルや外部研修、当施設の看護師や経験のある介護福祉士から処置の仕方を聞き、職員全員が同じ対応が出来るようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を年2回行っている。職員が誘導をする利用者同士、声を掛け合いながら真剣に取り組んでいる。実際に津波注意報があった際は、夜間であっても避難することが何度かあった。 | 年2回の避難訓練のほかに、実際の津波注意報が出た際には、夜間であっても避難している。エレベーター・非常階段・脱出シュートの設備はあり、地元消防団の協力体制や警備会社と契約を行っている。今後は、毎月の防災訓練も検討していきたいと考えている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 丁寧な挨拶、言葉遣いや態度など接遇については職員同士、声を掛け合っている。訪室する際はドアをノックしてから入室する、トイレには使用中と分かり易くプライバシーを保護している。 | 職員の配慮で時間的余裕を見ては、会話をしながら誉めたり、冗談を言って笑わせたりするなど、ほっとした温かさを感じさせる。写真入り(家族承諾済)の広報配布や、トイレ使用中のプライバシー保護についても配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員全体で個々の希望や思いが言える環境作りに取り組んでいる。入所者と職員が一对一になり本人が気持ちを言える様な雰囲気を作れるよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活リズムと、個々の希望に合わせてながら環境を作り充実した1日を過ごして頂ける様に支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着やすいものばかり着ている方が増えてきたが出来るだけお洒落を楽しんで頂くよう支援している。近隣の馴染みの美容室に送迎し気に入った髪形をされりフレッシュして頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | それぞれの好みに応じ、食べられない物は代替で対応している。味付けや盛り付けも得意とする入所者にして頂いている。また誕生会の手作りケーキのデコレーションをして頂く事があり入所者に好評である。食器洗いは役割が決まっており毎日行われている。 | 食事介助が必要な方は2名いる。各自の好物は記録しており、食べられないものは代替食としている。買い出し希望も積極的であり、週1~2回は職員と同行している。味付けから準備・片付けまで、積極的に手伝っている。献立は、職員が考えるが、週1回は冷蔵庫の食材を使う「フリーの日」を設けている。 | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々に合わせた好みの飲み物をいつでも飲めるようにセットしている。また、希望のある飲み物を近所の商店まで一緒に買いに行っている。嚥下機能低下のある方にはミキサー食や刻み食、トロミをつける等し、食べやすいように対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 1日3回、職員が声掛けと介助を行い、就寝前の義歯洗浄を個々に合わせて声掛けと一緒にしている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 身体機能低下の為、オムツを使用している入所者様が増えているが、時間を見て声掛けトイレ誘導促しています。出来るだけトイレでの排泄を支援している。 | 時間を見てのトイレ誘導により、紙オムツ使用を少しでも減らすことを心がけている。夜だけオムツの方、リハビリパンツに尿とりパットの方もいる。入所当時はリハパンだった方が、適時声を掛けることで、最近は布パンツ使用に改善された方(2名)がいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜中心の食事を提供し、無理強いない程度に摂取量が少ない方には声掛けをしている。朝のラジオ体操が出来る利用者には無理強いつけず一緒にしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴する曜日や時間が限られているが、当日、外出等で入浴出来なかった方には翌日に入れるようにしている。ADL低下が著しい方は特浴を使用し安全に入浴して頂いている。 | 月曜日から土曜日まで入浴できるように準備している。利用者は、週2~3回入浴されており、気合う利用者が声を掛け合って2~3名で入ることもある。ADL低下が著しい方は、特浴(リフト浴)を利用されている。自立することに重点を置いており、衣服の着脱は、一部の方を除いて自身で着脱した後、点検している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調や本人の気分で仮眠をとって頂けるようにしている。夜間帯、テレビを観ながら休まれる方には首を低くして頂くが、入眠寸前まで楽まれる様にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局からのお薬説明書をファイルに綴り、いつでも確認できる様に手の届くところに保管している。体調不良など変化があった場合、家族にも同席して頂いている。薬の変更時には申し送りにて引き継いでいる。 | | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の希望に合わせて、近隣の景色を眺めながら買い物をしている。 喫煙の方には喫煙場所を決め、好きな時にタバコを吸えるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物の希望があった場合、いつでも近所の商店へ出掛ける事が出来るようにしている。 ショッピングセンターへ買い物に出掛ける計画が年に2回あり外出を支援している。 | 近くの商店への買い物は積極的で、殆ど毎日交代で出かけている。また、大型ショッピングセンターにも年2回出かけている。町内会の祭りや様々なイベントにも出かけることがあるほか、家族同伴で外出した際に、外食をされてくる方もいる。ホームとしては、できる限りの外出支援に努めている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物に行く前に、希望の金額を財布に入れ、好きな物を買って頂いている。支払いは各自で行っている。現金の管理は事務所で行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があった場合、家族に電話をしたり年賀状を出したり手紙の交換を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所者様が気に入って購入した物、持参した物は各自自由に飾って頂き、手作りの物は廊下側の棚に置き皆が観る事が出来るようにしている。 | 階段を上がり並列に居室があり、廊下伝いに収納庫兼飾り棚があり、棚の上面には利用者の様々な手造り品(縫い物・刺し子・習字等)と、各自手入れをしている鉢植えが陳列してあり、ホールでは2台の大きなテーブルを囲み、芋の皮むき等食材の下準備を職員を中心に利用者全員で会話を楽しみながら行っていた。カウンター内(厨房)からのまな板の音・料理の香りが心地良く、リビング内にゆきわたっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入所者様が安心して生活が出来るように、自宅から馴染みのものを持って来て頂き、自宅に居るような好みのものを飾って頂いている。 | | |

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 思い思いに暮らせるように家具やテレビは持ち込み、利用者の使いやすい空間作りをしている。 | 居室には、電動ベッド・換気扇・クローゼットが備えられ、寝具は持ち込みで、その他は、仏壇・小箆箭・テレビ・冷蔵庫・電子ピアノ等が思い思いに持ち込まれている。特に、テレビの持ち込みが多いが、視聴節度をわきまえ、各自さやかに楽しまれている。入り口表札の代わりに、季節の花等の手作り絵を飾り、ホームのユニークでやさしい配慮が窺える。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の出来ないことに目を向けるのではなく、出来ることに目を向け自立した生活が送れるように支援しています。 | | |